

ノルウェー（2023 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ノルウェー日本国大使館](#)

1. 2021 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. 日本語教育略史

1.2021 年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
14	35	667	0	0.0%	196	29.4%	341	51.1%	130	19.5%

（注）2021 年度日本語教育機関調査は、2021 年 9 月～2022 年 6 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

初めて日本語がオスロ大学で教えられたのは 1966 年。その後、1986 年にはベルゲン大学、1987 年にはオスロ商業高校とノルウェー経済大学（Norges Handelshøgskole i Bergen）、1990 年にはベルゲン商業高校、2001 年にはノルウェー科学技術大学（NTNU, トロンハイム）、2005 年にはヴォルダ単科大学（Høgskolen i Volda、於ヴォルダ市：但し 2009 年に中断）にて日本語教育が開始された。2006 年にはソナンス私立高校（Sonans Privatgymnas、於オスロ市：但し 2016 年に中断）にて日本語クラスが開設された。2000 年代に入り、若年層では日本のアニメ・マンガといったポップカルチャーへの関心から、日本語学習者が増加。また、ノルウェーの中核的日本研究機関であるオスロ大学日本学科及びベルゲン大学日本語学科では、各学科への入学希望者及び日本語を選択科目として受講を希望する者が定員を超える人気ぶりである。実際、2023 年のオスロ大学日本学科への第一進学希望者は 110 名（定員 50 名）、ベルゲン大学日本語学科への第一進学希望者は 79 名（内訳：学部 63 名、修士 16 名）であった。これは、各大学の中国・中国語学科第一志望者が 54 名（定員 56 名）、25 名（定員

15 名)であることと比較すると日本語学科への第一志望者の方が比較的多いことがわかる。さらに、トロンハイムなどの地方都市でも日本語学習者は増えている。

背景

1960 年代後半、オスロ大学の 2 名の教授（内 1 名は日本人）により東アジア研究所が開設され、その後、大阪万博、札幌オリンピックにより日本への関心が高まった。更にリレハンメル冬季オリンピックに続く長野オリンピック開催、2005 年の日本・ノルウェー外交関係樹立 100 周年時の天皇皇后両陛下によるノルウェー御訪問なども、対日関心を高めるきっかけとなった。また日本が第二次世界大戦後に高度経済成長を通して、高度な技術を発展させたことも、ノルウェーにおける対日関心の高まりと密接に関連している。

特徴

日本語教育は中学校、高校あるいは大学レベルで行われている。全体的に日本語に対する関心は高まりつつある。最近では、アニメや現代文化への関心から日本語を学ぶ学生が多い。オスロ大学では 2003 年から、より多くの科目と日本語とを組み合わせるよう制度改正をしたこともあり、日本語を選択する学生が増加した。

最新動向

日本語学習者数が増加している現状を受け、2020 年 12 月 6 日、初となる日本語能力試験（JLPT）をコングスヴィンゲル高等教育センターが実施機関となり開催。

2023 年秋よりベルゲン大学にて修士課程が開講された（隔年募集）。

教育段階別の状況

初等教育

外国語としての日本語教育は実施されていないが、日本人を親に持つ児童に対して日本語教育の機会が国の義務教育の中で母国語教育（母国語による授業）として実施されている。

中等教育

中学校では外国語としての日本語教育は実施されていないが、上述の母国語教育を受ける権利は、義務教育期間に行使できる。ノルウェーでは中学校終了までが義務教育となるため、学校側が認定する対象者について日本語教育を実施できる。但し、こういった母国語教育は現在、ノルウェー語特殊教育の一部として実施されている。

高等学校では、外国語として日本語が選択科目対象になっているため、正に外国語としての日本語教育が実施されている。現在、①オスロ商業高校（Oslo Handelsgymnasium：同校の生徒及び放課後に同校で日本語授業を受講する他校の生徒を合わせて 2023 年秋学期に合計 79 名）、②アマリエ・スクラム高校（Amalie Skram Videregående skole：受講者数合計 19 名、於ベルゲン市）、及び③ヴェストラン県の高校生を対象としたネットベースの日本語クラス（2023 年秋学期：受講者数合計 8 名）の 3 カ所で日本語教育が行われている。いずれもレベル 1 と 2 の日本語クラスを有している。なお、フレドリック 2 世高校（於フレドリクスタ市）でも 2014 年から日本語教育が行われていたが、2022 年に終了した。

高等教育

国内の国立総合大学 7 校のうち、オスロ大学、ベルゲン大学、ノルウェー科学技術大学、ノルウェー経済大学に日本語コースが開設されている。オスロ大学（日本語を学ぶ学生数は 100 名、その他日本関連授業を受講する学生も多い）においては、初心者を対象とした学部レベルから修士、博士レベルに及ぶ学習課程が用意されている。第 5 学期（第 3 学年前期）に日本留学が行われている。ベルゲン大学（日本語学習者は学部 80 名、修士 7 名）においては初心者を対象に 3 年生までの授業が行われており、6 学期（計 3 年）に亘って学部レベルで日本語 1～4（日本語能力試験 N2 レベルまでに達する）及び日本文化・社会の課程が実施されている。第 4 学期後半から第 6 学期前半の間、日本留学が行われている。ノルウェー科学技術大学においては、初級レベルの日本語の授業（2 講座、各 50 名）が行われている。日本留学を目指す理工系の学生が多く、実用的な日本語教育に重点が置かれている。ノルウェー経済大学（2023 年の日本語履修学生は春学期 15 名、秋学期 7 名）においては日本語の授業が行われているほか、日本企業との商取引の際の留意点に関する講義も行われている。第 4 学期に日本への留学が奨励されている。

中心的日本研究機関であるオスロ大学日本語学科の学部レベル及び修士レベルのカリキュラム概要は以下のとおり。なお、2017 年秋学期より、大幅なカリキュラム変更が実施された。

学部レベル：

6 学期（計 3 年）に亘って日本語 1～4。入学後 2 年で初級を修了、第 5 学期（第 3 学年前期）に日本留学、帰国後第 6 学期（第 3 学年後期）に中級を修了。日本語と並行して、日本の文学・歴史・社会・宗教のほか、社会科学系科目などを組み合わせた履修が可能。

修士レベル及びそれ以上：

2 年間コース。第 2 学年では日本語の授業はない。3 学期目に日本での留学またはインターンシップ、4 学期目に修士論文の執筆を行う。

学校教育以外

オスロ市では、オスロ市民大学（Folkeuniversitetet i Oslo）にて日本語コースが開講されている（学習者は 2023 年秋学期 29 名、2024 年春学期 8 名）。オスロのリング言語センターでも日本語教育が数年間開講されていたが、2014 年 4 月にセンターが閉鎖した時に日本語教育も終了した。

ここ数年間にかけて、ノルウェーの国民高等学校（Folkehøyskole (fhs)）でも日本語教育を含むプログラムが増加している。漫画・アニメ及び日本のポップカルチャー専攻が増加しており、日本への研修旅行なども人気がある。現在、6 つの国民高等学校で日本語言語学習が提供されている（Hadeland fhs, Sunnhordaland fhs, Toten fhs, Namdal fhs, Karmøy fhs, Møre fhs）。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

7-3-3 制。

小学校 7 年間（6～13 歳）、中学校 3 年間（13～16 歳）。

高等学校は 3 年間（16～19 歳）で、一般課程と職業課程に分かれる。

高等教育は大学や単科大学（学士号は 3～4 年間、修士号は 2 年間）。

義務教育は、小学校と中学校の 10 年間。

教育行政

教育研究省がすべての教育に責任を有している。

言語事情

ノルウェー語（ボークモール、ニーノシュク）、サーミ語が公用語。

外国語教育

《第一外国語》

各小学校は、第 1 学年から第一外国語として英語の授業を行うことを義務付けられている。中学校においては 3 年間の英語学習が必修。高校では、第 1 学年で必修であり、生徒の専攻によっては第 2、第 3 学年で英語学習が必要となる。

《第二外国語》

第二外国語学習は中学校で習う「第 1 段階」及び高校で習う「第 2 段階」に分かれており、高等教育機関への進学のためには「第 2 段階」を履修しなくてはならない。

中学校の第 1 学年から、生徒は第二外国語、あるいは英語かノルウェーの公用語（ノルウェー語(ボークモール、ニーノシュク)かサーミ語)の補足課程のいずれかを選ばなければならない。第二外国語を選んだ場合は、中学校で 3 年間を通じて基礎を勉強する「第 1 段階」を学習する。スペイン語、フランス語、ドイツ語の履修者が伝統的に最も多いが、各学校においてどの語学を教授するかについての明確な規定はない。中学校で学習した第二外国語のさらに上級水準の「第 2 段階」の課程を、高校第 1 学年及び第 2 学年において学習することによって、第二外国語学習履修の基準を満たす。

また、中学校において第二外国語学習を履修しなかった場合、或いは中学校で学習した言語と違う言語の学習を希望する場合は、高校から新しい第二外国語の学習を始める。この場合は、高校 3 年間を通じてその言語の「第 1 段階」及び「第 2 段階」の両方が組み込まれた課程を学習する必要がある。スペイン語、フランス語、ドイツ語のほか、イタリア語、ロシア語、サーミ語、フィンランド語、ラテン語など、中学校よりも広い選択の余地が与えられる。高校における日本語課程は「第 1 段階」から始まり、さらに上級のクラスに進むことによって、日本語の「第 2 段階」を学習する。

日本語の学習を受けられる高校は数が限られているため、日本語授業のある高校では、日本語の受講を希望する他校の生徒を募って、日本語授業に参加させる場合があり、また、課外授業を設立してそれに参加させる場合もある（全国受講者数、2020～2021 学年：128 名、2021～2022 学年：221 名）。また、日本語の学習が受けられない高校でも、高校の外国語教育として日本語の試験を「自立受験者・個人受験者」（«privatist»）として受験可能（2021 年～2022 年：全国受験者数 10 名）。

外国語の中での日本語の人気

前述のとおり、2000 年代に入り、日本語学習希望者の数が増加。オスロ大学日本語学科への出願数は、東アジア言語専攻の中で最多となっている。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない（高校での履修科目及び成績に基づいた選考が行われているため、大学入試がない）。

4.学習環境

教材

初等教育

外国語としての日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

- 『初級日本語 げんき 1・2』坂野永理ほか（ジャパントイムズ）
- 『Nihongo på norsk』M. Kudo-Hübendick, M. Tsuruta Pedersen, E. O. Vestre（Fagbokforlaget 2017）
- 『日本語文法 I・II』M. Kudo-Hübendick, M. Tsuruta Pedersen, E. O. Vestre（Utdanningsetaten i Oslo, 2014）

高等教育

- 『初級日本語 げんき 1・2』（前出）
- 『Kanji Look and Learn』坂野永理ほか（ジャパントイムズ）
- 『AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE』三浦昭ほか（ジャパントイムズ）
- 『1日15分の漢字練習』学校法人 KCP 学園 KCP 地球市民日本語学校（アルク）
- 『Naru hodo 1・2』Harry Solvang（Fagbokforlaget 2015）
- 『日本語学習のためのよく使う順 漢字 2200』徳弘康代（三省堂 2014）

学校教育以外

- 『初級日本語 げんき 1・2』（前出）

IT・視聴覚機材

オスロ大学では、講義録、教科書に附属の CD の内容、口頭練習用のデータファイルや過去のテストなど、各種日本語教材のデータファイルを学生がアクセスできるようウェブサイトには保存している。また、映像で日本の地域などについて学ぶこともある。他の大学レベルの日本語クラスの場合でも、このようなウェブサイトを持っている機関が多い。オスロ大学では 2018 年からは PC を利用した試験が実施されているが、実際に手で回答する事も大事であるとの考えから 1 年生は紙媒体での試験が実施されている。また、ベルゲン大学及びノルウェー経済大学、ノルウェー科学技術大学では教科書『初級日本語 げんき』（前出）に関連する日本語学習用のウェブサイトを利用している。どの教育段階においても、学習者はインターネットにより漢字・文法の練習をしたり、情報を収集したり、自分の発表のためにパワーポイントを使ったりしている。

5. 教師

資格要件

初等教育

外国語としての日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

高校で日本語の教師になるためには、高い水準の日本語力と、大学レベルの教育機関で教授法の資格を取得することが求められる。大学で日本語及び教授法を学び学士号を取得したものは、高校で常勤の日本語教師になることが可能。

高等教育

大学では、国籍を問わず、修士号を有するものは日本語講師（University Lecturer）に、学士号を有するものは会話クラスの教師になる資格を有する。大学で常勤ポストを得るためには、博士号が必要。

学校教育以外

大学レベルの教育機関で日本語の（教授）資格を取得していることを、採用の条件とする機関が多い。

日本語教師養成機関（プログラム）

オスロ大学では PPU（Praktisk Pedagogisk Utdannelse 教職課程）に 2013 年日本語が導入され、オスロ商業高校における実習などが行われている。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本語教師の資格及び修士号もしくは博士号（日本語教育または言語学）を有することが必須、永住者が講師として活躍している。オスロ大学では 8 名の正規日本語教員のうち 4 名が日本人、ベルゲン大学は日本語教員 5 名のうち 3 名が日本人である（常任講師 1 名、非常勤講師 2 名）。ノルウェー科学技術大学では正規雇用の日本語教員は日本人 1 名となっている。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修はないが、2017 年より、ノルウェー全国の日本語教師グループによる自主セミナーなどが行われている。

現職教師研修プログラム（一覧）

2017 年には、JF の助成により、オスロ商業高校において、教師グループによる新たな日本語教材の使用に関する自主セミナーが開催された。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係者・日本語学習者の情報交換のためのネットワークとして、2013 年、Facebook グループ「Nihongo i Norge」が設立された。更に、2021 年に「ノルウェー日本語教師会グループ」が Facebook グループとして結成され、日本語教材及び日本語教育関連のワークショップ情報などを共有している。現在のメンバー数は 10 名である。

オスロ大学及びベルゲン大学では、交換留学提携先の日本の大学とのネットワークがあるほか、個人レベル（例えば、市民大学の講師とオスロ商業高校の講師）での情報交換も行われている。

[教師会・学会一覧へ](#)

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8. 日本語教育略史

1966 年	オスロ大学にて日本語教育開始
1986 年	ベルゲン大学にて日本語教育開始
1987 年	オスロ商業高校、ノルウェー経済大学にて日本語教育開始
1990 年	ベルゲン商業高校にて日本語教育開始
2001 年	ノルウェー科学技術大学にて日本語教育開始
2005 年	ヴォルダ単科大学にて日本語教育開始
2006 年	ソナンス私立高校にて日本語クラス開設
2008 年	ノルウェー科学技術大学にて、単位認定の日本語の授業設立

2009 年	ヴォルダ単科大学にて日本語教育が中断 オスロのリング言語センターで日本語クラスを開講
2011 年	オスロのトーセン小学校にて日本語教育開始
2012 年	オスロのトーセン小学校にて日本語教育が中断（日本語教師の異動のため）
2014 年	オスロのリング言語センターにて開講されていた日本語教育が閉講（センター全体が閉鎖したため） フレドリック 2 世高校で日本語教育開始
2016 年	ソナンス私立高校にて日本語クラスが閉講
2022 年	フレドリック 2 世高校にて日本語教育閉講
2023 年	ベルゲン大学にて修士課程が設立